

令和5年3月

令和4年度 学校経営報告

八王子市立船田小学校 校長 平田 英一郎

1 はじめに

コロナも3年目となり、コロナ禍の中でもできることが分かってきている。「○○だから」と言い訳にせず、子どもたちに寄り添えるよう、今年度も「今できるベストを」心掛けた。保護者や地域の方々も理解を示してくださり、多大なる協力をしてくださった。

そして今年度は「一步踏み出す」を合言葉として、本校児童が「一步踏み出せる環境づくり」に「チーム船田」として一丸となって取り組んでこられたと自負している。

次年度以降も「今できるベストの教育」を船田小学校は目指し、具現化を図る。

教育委員会・保護者・地域の皆様のご理解とご協力に、この場をお借りして心からの感謝を申し上げたい。

2 目指す学校像 ○子どもたちが「学びたくなる学校」

○保護者が 「通わせたくなる学校」

○地域が 「誇りに思う学校」

○教職員が 「勤めたくなる学校」 として1年間取り組んだ。

3 令和4年度の実行目標と方策（本年度の達成課題）

(1) 子どもたちが「学びたくなる学校」

①「できた」「分かった」喜びのある学習・学力向上

できる限りのスモールステップを踏み実現を図った。

不十分な点は真摯に反省し次年度以降改善を図る。

② 特別な支援の必要な子どもへの指導・対応

→ 引き続き、学校サポーターⅠ、学習支援員、東京都公立小・中学校特別支援教育推進補助事業からサポーターを配置した。学校外の団体との連携も一層深めた。特に今年度はSSW（スクールソーシャルワーカー）との連携が高まった。これらにより個別最適な学びの実現にいっそう尽力できた。

(2) 保護者が「通わせたくなる学校」

①学校評価アンケートより

- ・ほとんどの項目で肯定的な回答（80%以上）で評価いただいた。
- ・特に「子どもの学級は落ち着いて学習できる雰囲気である」は肯定的な回答が前回より6.5%増加して92.8%となった。
- ・「子どもは、楽しく学校に通っている」97%が肯定的な回答となった。
- ・キャリア教育についてご意見をいただいた。次年度以降の参考とする。

・タブレットで「カバンが重い」という点については今後も検討していく。

② 保護者からの苦情対応を的確に行う。（問題発生の対応が後追いにならないように）

→ 何件かご意見をいただいた。そのたびに真摯に対応した。

学校外でのトラブルが学校に寄せられる傾向が高まっている。本来地域で解決すべき課題も含まれる。町会・自治会とも連携を深めていく。

③ 「電話対応時間」の設置と「ホーム&スクール」による家庭との連携

今年度より二つをセットにして開始した。課題がないわけではないが、「教員の働き方改革」に大きく貢献できている。引き続きご家庭のご理解とご協力をお願いしていきたい。

(3) 地域が「誇りにしたくなる学校」

学運協とのスムーズな連携を行う。

① 地域との連携事業も少しずつリスタートできた。次年度以降積極的に参加し、連携することでさらに盛り上げていきたい。

② 学運協と連携して、昨年度までの事業の他、今年度3つ新たな事業を開始できた。「ウイズコロナの生活の中」で新しい事業をこれからも積極的に企画運営していく。

(4) 教職員が「勤めたくなる学校」

① 校内研究の充実

→ 自らが研究したいことを3つの分科会で話し合い追求した。

「チーム船田」として取り組むことができた。

② 働き方改革の推進

→ 電話応答時間の設置、開放員さんの勤務終了時刻を早める等により、教職員の退勤時刻が明らかに早くなり、勤務時間の短縮につながった。

(5) その他

① 人権尊重教育の推進

『心の教育（人権尊重教育）』を重視し、計画に沿って授業は行えた。道徳授業地区公開講座の公開講座はコロナ禍の影響で今年度も開催できなかった。

② 不登校児童をつくらず、いじめを起ささないよう、早めの対応。

→ いじめ対策委員会を毎週開催した。そのことで、いじめだけでなく生活指導全般が充実し、「後追いの生活指導」ではなく、船田小が目指す「予防的な生活指導」が一層実現できた。

③ 学校ホームページの更新は、好評をいただいている。